

1 整備の考え方 ～「進化型生態的展示」への挑戦～

基本構想において示された“「ライブ」でこそ伝えられる動物の魅力を発信”などの《天王寺動物園としての使命》を実現するため、新たな施設整備計画を策定した上で、長期にわたる整備プロジェクトの推進を図ります。

＜動物の生活の質（QOL）とお客様満足度の向上に向けた、施設整備計画に係る現状と課題＞

天王寺動物園では、平成7年度に策定した『ZOO21計画』に基づき、動物と植物が一体となった生息地の自然景観の再現を試みた「爬虫類生態館アイファア」「カバ舎」「サイ舎」「アフリカサバンナ草食動物・肉食動物ゾーン」及び「アジアの森ゾーン」の整備を順次進めてきました。

これらの取り組みによって、動物の異常行動が発生する狭く退屈な飼育環境が改善され、動物たちにとっての生活環境の向上や、さらには動物展示を通じて学ぶ地球レベルの環境教育等、『ZOO21計画』という世界水準の試みが日本の動物園展示に新たなエポックを切り開きました。

しかしながら、新たな展示施設の整備という観点において、大型飼育施設の整備に伴うコストの増大、あるいは動物までの距離が遠い等、今後改善を図るべき課題も明らかになってきました。

また、『ZOO21計画』に基づき整備された施設と『ZOO21計画』以前の老朽化した施設とが混在する園内状況の中、近年は軸となる整備方針が不在のまま、都度々々の対処的な施設整備対応を行うに留まっていました。

このような中、古く狭い飼育施設の継続利用に伴う動物福祉面での課題、動物そのものが見えづらい檻・柵構造の課題、繁忙期における観覧動線の滞留、休憩施設の不足等、多くの課題を抱えており、今後の施設整備に当たって解決を図る必要があります。

＜課題解決に向けた施設整備の基本方針＞

本計画では、従来の生態的展示の良さを残しつつ、魅力的な展示の実現や動物福祉の向上を図るため、「動物本来の生息地環境」の中、「動物本来の活発な行動を誘発」し、給餌などに工夫を凝らして動物たちを「来園者の間近で見せる」こと、言いかえれば『ZOO21計画』において進めてきた「生態的展示」を進化させた展示（進化型生態的展示）を目指すこととします。

また、都心のど真ん中の貴重な緑環境を活用しつつ、動物たちの生息地・自然環境の再現を図ることで、「都心のオアシス」としての機能確保にも努めます

動物福祉への配慮も重要であり、動物たちが健康的で活発に暮らしていける環境を整えていくとともに、バックヤード機能の充実も必要となります。

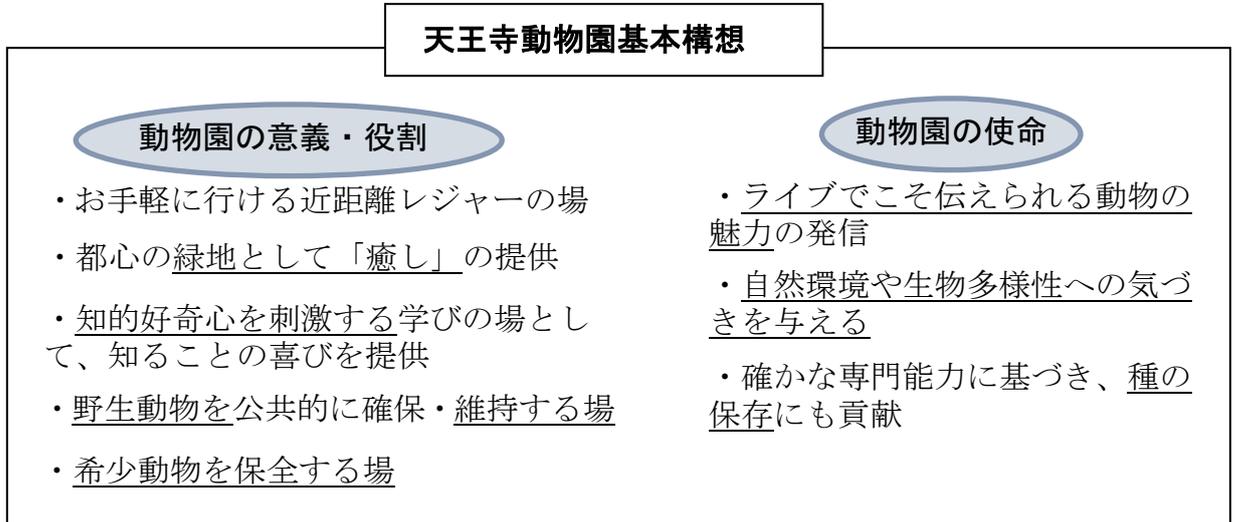
お客様目線では、繁忙期の動物イベント実施時等において、より多くのお客様に快適に見て頂ける観覧環境の整備も求められます。

整備コストについては、イニシャルコストだけでなく、ランニングコストも含めたトータルコストの低減を図っていくことも重要です。

以上を踏まえ、「動物の行動を誘発する展示環境」「動物たちが健康的で活発に暮らしていける飼育環境」「お客様にとって快適な観覧環境」「トータルコストを極力抑えた整備手法」の4点のバランスを考慮しながら施設整備計画を立案していきます。

1) 基本構想等における方針

基本構想において定められた施設整備に関連する方針は、以下のとおり。



進化型生態的展示については、「動物本来の生息地環境」、「動物本来の活発な行動を誘発」「来園者の間近で見せる」ことを目指すこととします。

2) 動物園の展示配列の視点からの整理

本計画策定にあたっては、5つの動物展示配列論をもとに、より効果的な展示のあり方についての整理を行いました。

※参考文献 Lawrence Curtis 1968 , Zoological Park Fundamentals

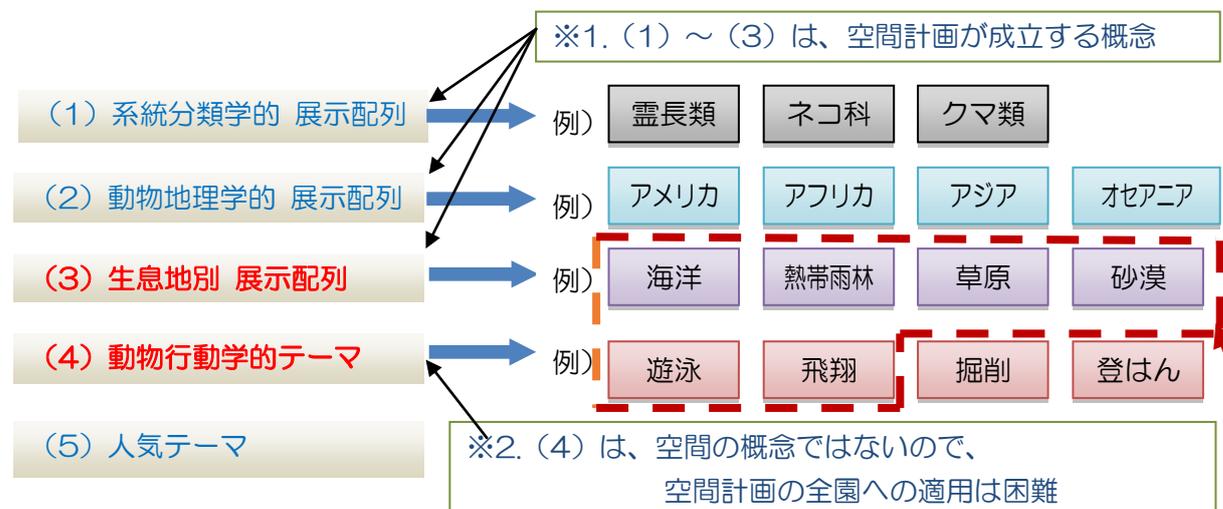
①<<動物の魅力をしっかり伝える動物園>>

- 使命→ライブでこそ伝えられる動物の魅力を発信
- 使命→動物についての理解を与える
- 使命→自然環境や生物の多様性への気づきを与える
- 意義役割→生きものや自然と触れ合う場
- 意義役割→知的好奇心を刺激する学びの場

- (1) 系統分類学的 展示配列
- (2) 動物地理学的 展示配列
- (3) 生息地別 展示配列
- (4) 動物行動学的テーマ
- (5) 人気テーマ

②<<楽しかった、為になった、癒されたと言ってもらえる動物園>>

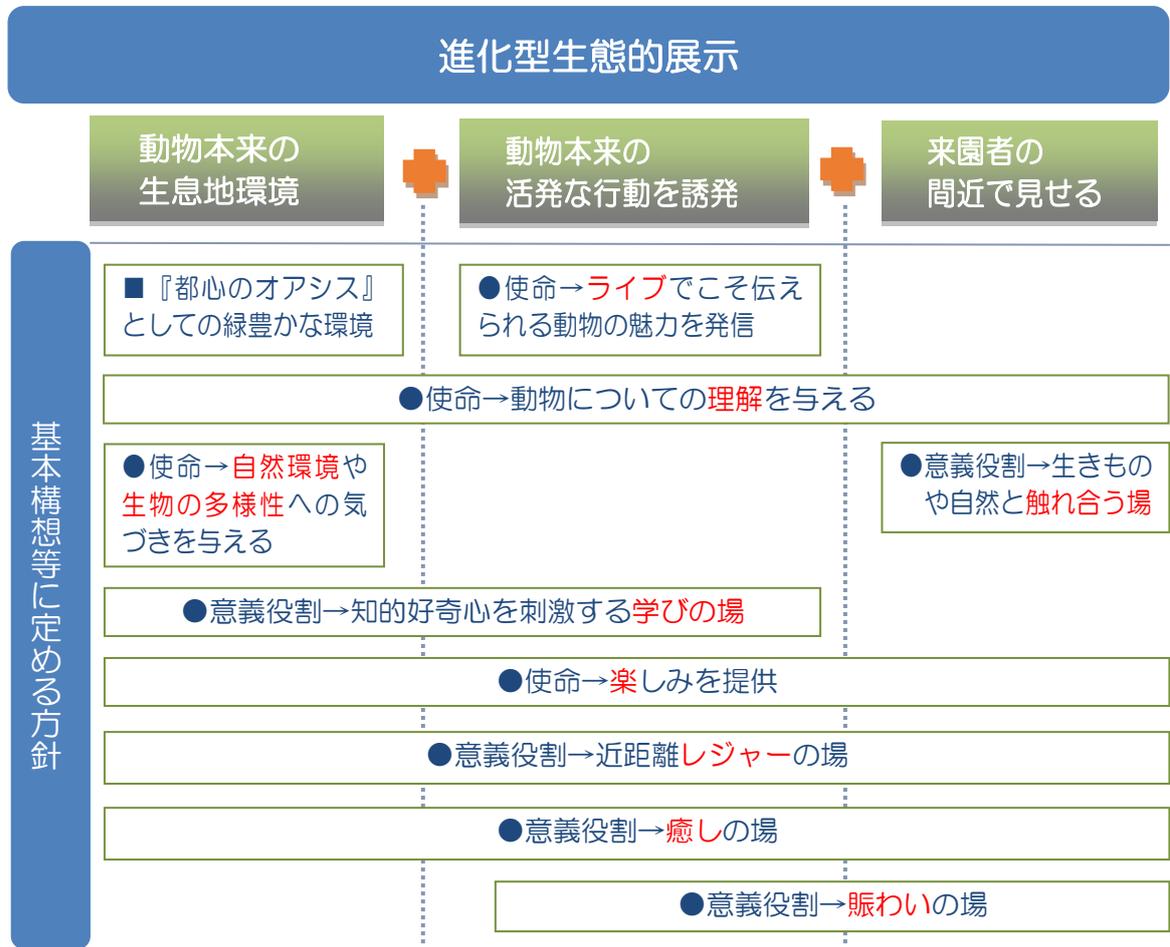
- 使命→楽しみを提供
- 意義役割→近距離レジャーの場
- 意義役割→癒しの場
- 意義役割→賑わいの場



【生息地別展示配列】と【動物行動学的テーマ】をリンクさせることで、来園者の環境への気づき意識を高め、また動物にとってもより豊かな生活空間の中で暮らすことが可能となります。

3) 展示のあり方と期待される効果

進化型生態的展示と基本構想等に定める方針との関係、展示によって期待される効果を整理します。



※期待される効果は、基本的な方針をベースに一層の効果を期待

期待される効果

- ① 「生きものへの知的好奇心」や「地球環境問題の気づきや学び」において、来園者のより一層の知識の充実や満足度向上が期待される
- ② 「生物多様性」を新たな展示にしっかり組み込むことで、世界水準の動物展示環境の実現が可能となり、結果として市民にとっての動物園プライドの醸成や都市型動物園としての存在意義の向上が期待される

2 前提条件の設定

2-1 前提条件の設定

- 「天王寺動物園コレクション計画」に基づき、今後継続的に維持するとされる種を主体とした動物飼育施設として計画を行います。
- 既存で使用を継続する施設等については、出来る限りそれらの目標像の実現が可能となるよう配慮しつつ、施設の耐久性、来園者の流れや地域との関係性を鑑みながら、適宜修繕を図りつつ施設の適切な維持を図ります。



2-2 既存の継続施設等

既存で使用を継続するエリア・コーナー・施設は以下のとおりとします。

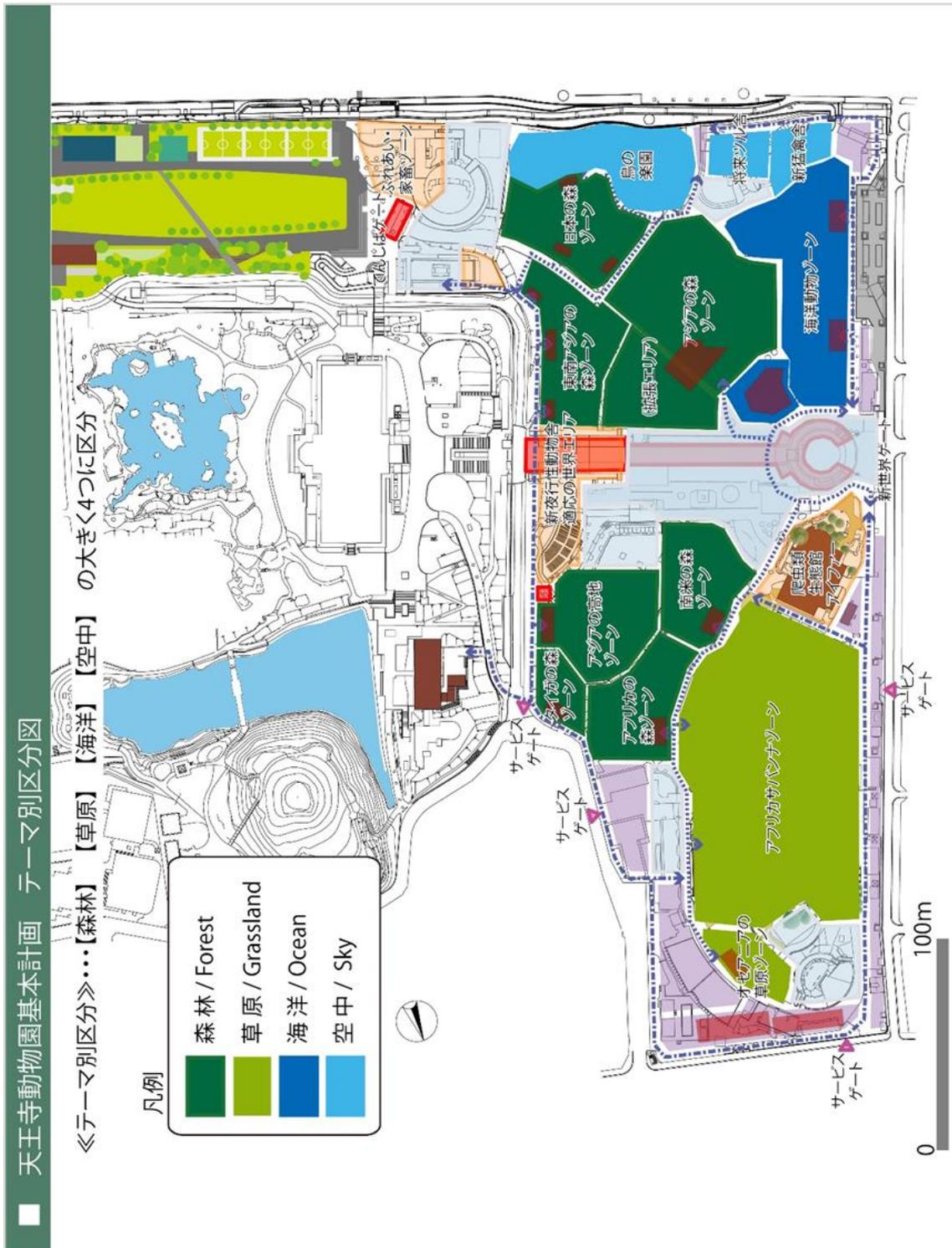
- 【爬虫類生態館アイファー】
- 【アジアの森ゾーン】
- 【アフリカサバンナゾーン】（※カバ舎、サイ舎含む）
- 【鳥の楽園】・・・施設構造を活かし、部分的なリニューアルを図ります
- 【ツル舎】・・・将来的には動物種入れ替えに伴う機能転換を許容します。

- ◆ 【てんしばゲート】
- ◆ 【映像館】・・・天王寺動物園と公園エントランスエリアとの結節点であることから、解体・利活用を含めた幅広い検討を行い、当該エリアを有効に活用します
- ◆ 【新世界ゲート】・・・施設構造を活かし、部分的な機能転換やリニューアルを図ります
- ◆ 【動物公園事務所】

3 テーマ区分及び新たな計画エリア等の設定

3-1 テーマ別区分

4つのテーマ区分（森林/草原/海洋/空中）をわかりやすく設定することで、動物の生息環境や行動へのより良い理解を、来園者に促します。



4 ゾーニング

4-1 ゾーニングに際しての4つの考え方

《1》 【生息地別展示配列】と【動物行動学的テーマ】をリンクさせた、来園者の環境への気づき意識を高め、また動物にとってもより豊かな生活空間の中で暮らすことへと繋がるゾーニングを目指します。

《2》 ゾーンや施設毎のマッチングに配慮するとともに、継続的に使用する施設やエリアとの整合性にも適宜配慮します。

《3》 天王寺動物園は、都心にありながら天王寺公園という豊かな緑環境を周囲に有する動物園であるため、すでにある自然環境をできるだけゾーンの背景に取り込み、調和を図ることとします。

《4》 将来的に導入が困難となってしまった動物種を設定していたゾーンについては、同じニッチェや概念等を基本とした新たなテーマに変更した上で、計画の変更を行うことを許容することとします。

4-2 新たな計画エリア等の設定

- ▶ 今後新たに計画するエリア・コーナー・施設については、天王寺動物園における理想的な“展示のあり方”や“期待される効果”を一層高めることを目標とします。
- ▶ なお、エリア等を構成する種目については、【生息地別展示配列】と【動物行動学的テーマ】をリンクさせたものを基本とすることで、環境に対する来園者の気づき意識を高め、また動物にとってもより豊かな生活空間の中で暮らすことへと繋げる等を目的に、レポートリーを持ったものとします。

4-3 新たに計画する施設等

A) 動物飼育に係る、今後新たに計画するエリア・コーナー・施設は、以下の設定とします

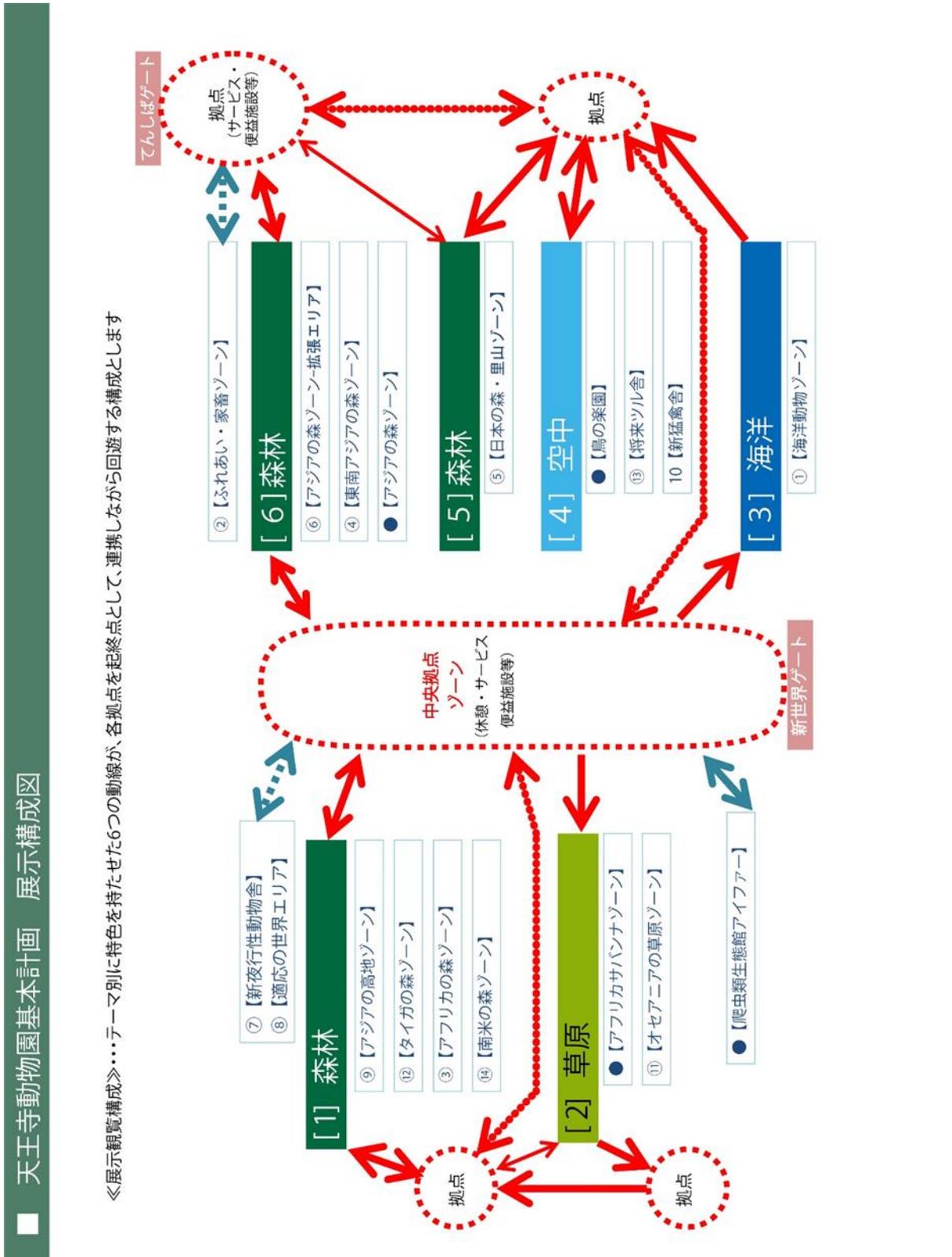
- ① 【海洋動物ゾーン】
- ② 【ふれあい・家畜ゾーン】
- ③ 【アフリカの森ゾーン】
- ④ 【東南アジアの森ゾーン】
- ⑤ 【日本の森・里山ゾーン】
- ⑥ 【アジアの森ゾーン-拡張エリア】
- ⑦ 【新夜行性動物舎】
- ⑧ 【適応の世界エリア】
- ⑨ 【アジアの高地ゾーン】
- ⑩ 【新猛禽舎】
- ⑪ 【オセアニアの草原ゾーン】
- ⑫ 【タイガの森ゾーン】
- ⑬ 【将来ツル舎】
- ⑭ 【南米の森ゾーン】
- ⑮ 【新病院・研究棟/調理場】
- ⑯ 【非公開飼育エリア】

B) サービス等に係る、今後新たに計画するエリア・コーナー・施設は、以下の設定とします

- ◆ 【動物学習施設】 (ホール、講義スペース、展示[標本等]コーナー、図書・資料スペース)
- ◆ 【スーベニアショップ】
- ◆ 【レストラン/カフェ】
- ◆ 【キオスク】 (ケータリングカー等)
- ◆ 【休憩エリア・遊具広場・雨天休憩所】
- ◆ 【総合案内所】 (案内・迷子・救護・レンタル・コインロッカー・イベント集合・ボランティア待機等)
- ◆ 【トイレ棟】
- 【バックヤード】 (作業スペース[工作・修理・洗浄等]、資材置場、倉庫、ゴミ集積所、コンポスト、作業車駐車場)
- 【バックヤード連絡通路】 (サービス動線)

4-5 展示構成図

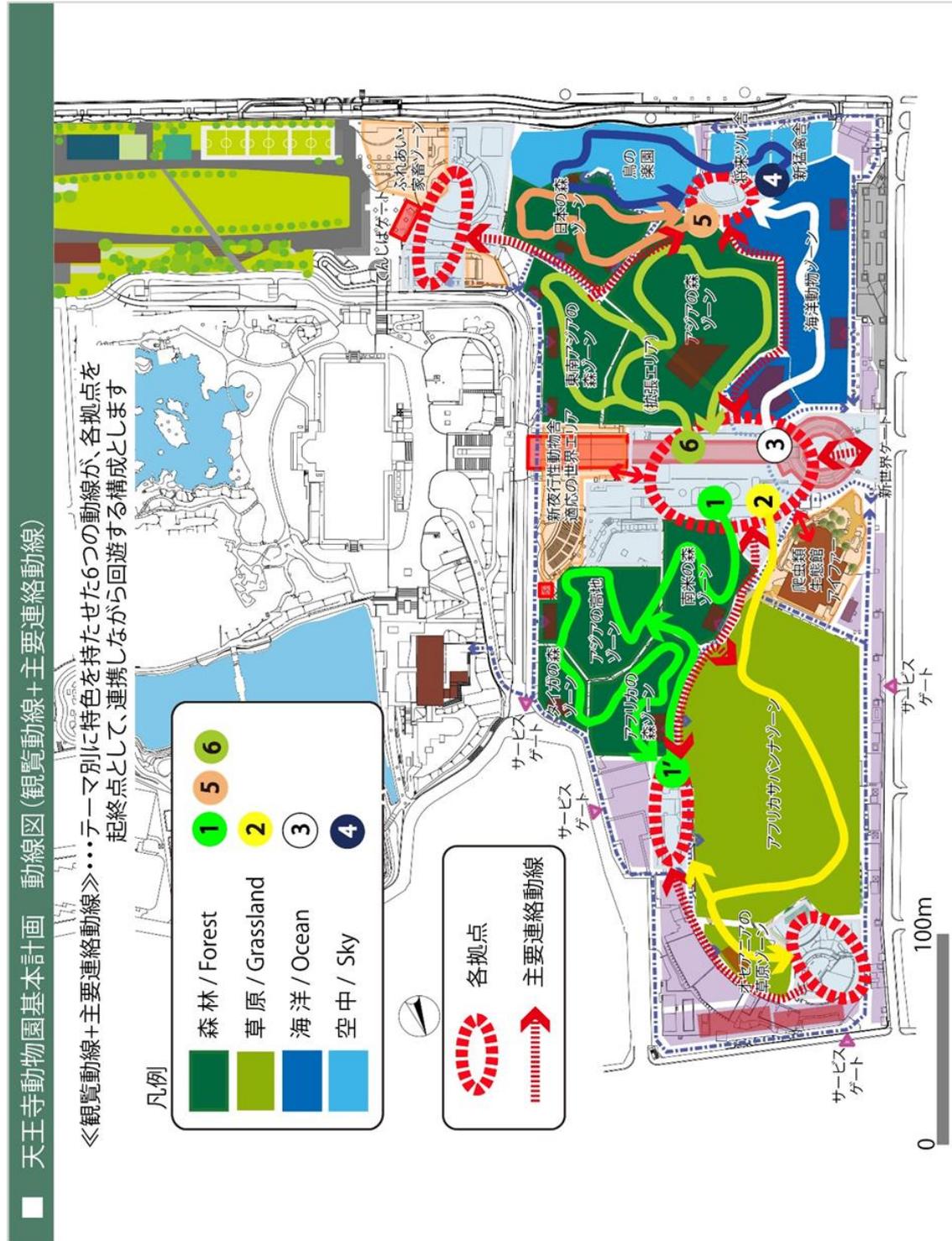
4つのテーマ別区分（森林/草原/海洋/空中）を基本とした6つのパッケージと、各拠点とをシンプルに組み合わせることを目指した、わかりやすい展示構成とします。



5 動線

5-1 動線図（観覧動線+主要連絡動線）

テーマ別に特色を持たせた6つの観覧動線が、各拠点を起終点として、連携しながら回遊する構成とします。



5-2 動線図 (サービス動線)

観覧動線との交錯をさけた、外周型スタイルを基本としつつ、補助的な園内サービス動線と組み合わせた動線構成とします。



6 新施設整備プロジェクト — 展示・空間ハイライター —

動物と展示環境の多種多様な組合せを通じて、動物園にしか語ることでできない多くのメッセージを発信するとともに、動物がその能力を発揮しつつ健康に暮らせるよう、様々な条件に配慮した18の新施設整備プロジェクトを設定し、既存の施設と合わせて、動物園の未来像の体現を目指します。

◎新施設整備に際して配慮すべき条件

○来園者、動物、作業者に安全で快適な施設とする

- ・国内外の動物種ごとの飼育基準を満たすことはもちろん、動物のQOLに配慮したものとする
- ・動物の繁殖に配慮した構造、設備を備える
- ・種の長期的維持のために十分な個体数、個体群の飼育が可能である
- ・動物本来の活発な行動を誘発し、展示できる
- ・動物の生態に配慮し、野生に近い暮らしを再現できる
- ・緑を多用し、都心においても快適な空間を提供できる

○エコ・フレンドリーな施設とする

- ・建設や維持管理において消費する資源、エネルギーを極力抑える
- ・維持管理において再生可能エネルギーを極力使用する
- ・建設や維持管理において排出する廃棄物、汚水等を極力抑える

◎新施設整備プロジェクトリスト

- 6-1) ① 【海洋動物ゾーン】
- 6-2) ② 【ふれあい・家畜ゾーン】
- 6-3) ③ 【アフリカの森ゾーン】
- 6-4) ④ 【東南アジアの森ゾーン】
- 6-5) ⑤ 【日本の森・里山ゾーン】
- 6-6) ⑥ 【アジアの森ゾーン-拡張エリア】
- 6-7) ⑦ 【新夜行性動物舎】
- 6-8) ⑧ 【適応の世界エリア】
- 6-9) ⑨ 【アジアの高地ゾーン】
- 6-10) ⑩ 【新猛禽舎】
- 6-11) ⑪ 【オセアニアの草原ゾーン】
- 6-12) ⑫ 【タイガの森ゾーン】
- 6-13) ⑬ 【将来ツル舎】
- 6-14) ⑭ 【南米の森ゾーン】
- 6-15) ⑮ 【新病院・研究棟/調理場】
- 6-16) ⑯ 【非公開飼育エリア】
- 6-17) ⑰ 【てんしばゲートひろば】
- 6-18) ⑱ 【新世界ゲートひろば】

6-1) 展示・空間ハイライター①【海洋動物ゾーン】

ゾーンコンセプト：海洋動物と遭遇する「地球縦断の旅」を通じ、地球規模の海の問題を知る

■主な飼育展示動物種：ホッキョクグマ・カリフォルニアアシカ・
フンボルトペンギン

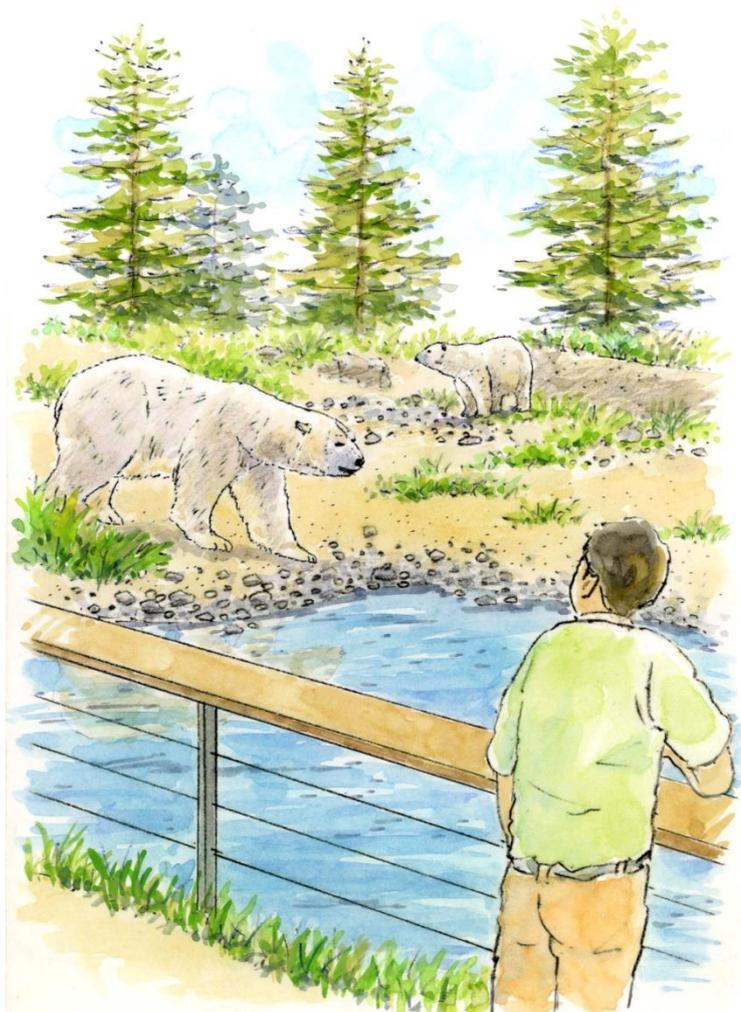
■ゾーンの主な特色

★躍動感あふれるホッキョクグマや、
アシカ・ペンギンが自在に泳ぎまわる
海洋景観が展開

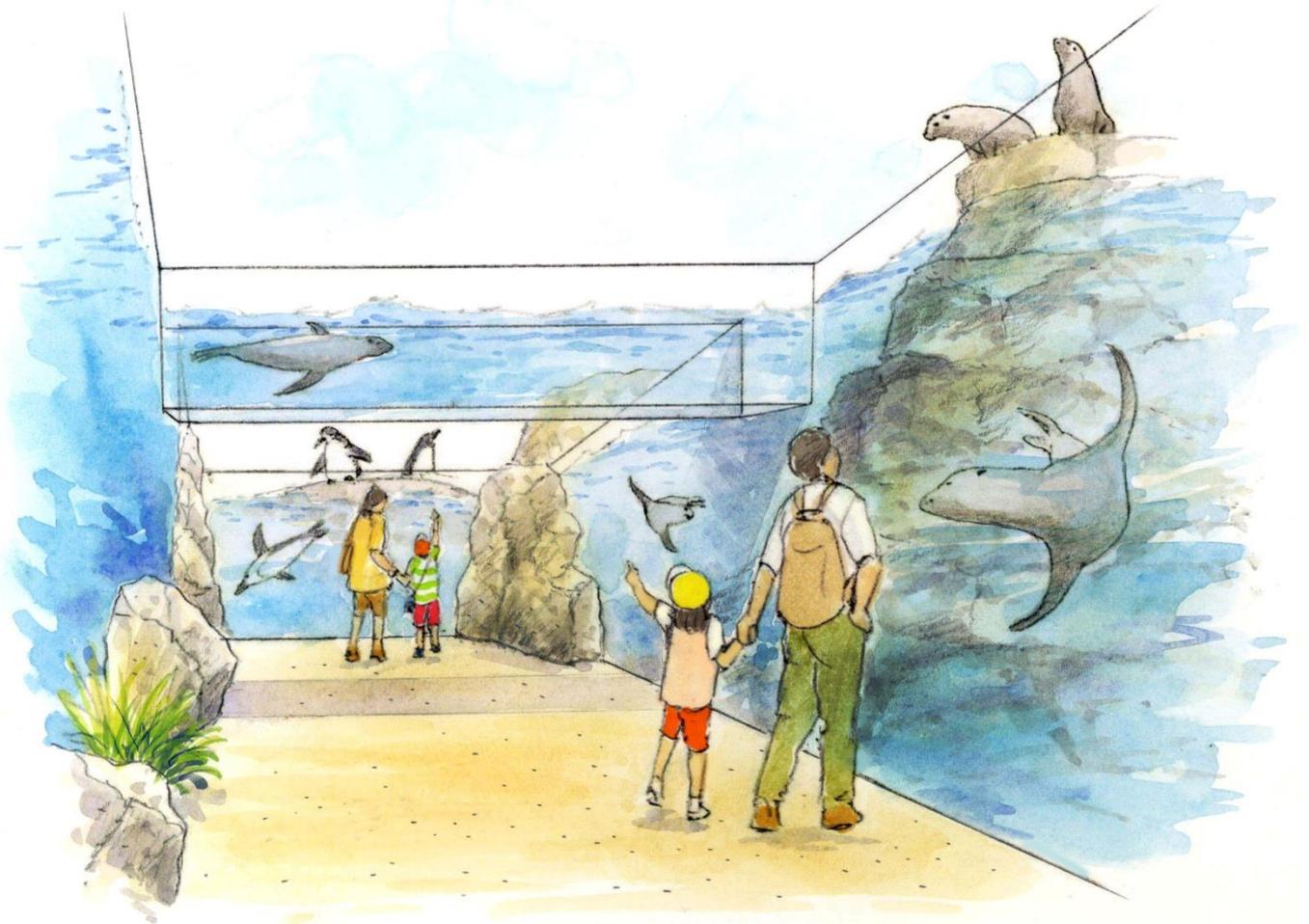


- ・アクリルを効果的に利用し、生き活きと泳ぐ動物たちの本来の姿を見せる展示を行います。また、動物たちの遊泳行動を活発化させるため、造波装置を取り入れた水環境を創出します。
- ・ペンギンの陸地エリアにウォークスルーを取り入れるなど、様々な角度から多面的に観察することができる展示環境づくりを行います。
- ・野生の海洋生物の生活環境の悪化などについて積極的に情報提供を行い、生物多様性や地球環境問題への気づきを与える展示とします。
- ・世界的な動物飼育の基準をクリアできるような飼育環境を整え、海外先進施設との繁殖協力体制の構築を目指します。

■シーンイメージ



- 豊かな陸地を悠々と闊歩する
ホッキョクグマと夏の生息地環境（上）
- ホッキョクグマの行動を誘発する水中展示のイメージ（左）



■アシカとペンギンの回遊シーンが観察可能な展示、観客の頭上を渡るアシカの通路（上）

■ペンギンの生息環境に足を踏み入れたかのようなウォークスルー（下）



6-2) 展示・空間ハイライター②【ふれあい・家畜ゾーン】

ゾーンコンセプト：人と共に生きる動物の意味と、そのあたたかさを知る

■主な飼育展示動物種：ヤギ・ヒツジ・日本産在来馬・
テンジクネズミ（モルモット）・カイウサギ



■ゾーンの主な特色

★「動物とのふれあい」によって、生命の尊さを知る

- ・人と共に生きる動物（家畜など）をより深く理解するために、農村をモチーフとした建屋を整備し、動物と暮らす生活の場を体験しながら、動物とふれあう空間を提供します。
- ・単に動物に触れるだけでなく、命の大切さや有史以来長きにわたる人と動物との関係について学ぶことができる展示を目指します。
- ・てんしばと近接した位置であることを活かして、小動物を充実させるなど、広く来園者を呼び込むことができる展示を行います。

■シーンイメージ



■古くから農耕などに用いられてきた日本産在来馬

■ヒツジ、ヤギ、テンジクネズミなどとのふれあい体験

6-3) 展示・空間ハイライト③【アフリカの森ゾーン】

ゾーンコンセプト：アフリカの自然環境で生きる、チンパンジーの高い知性を知る

■主な飼育展示動物種：チンパンジー

■ゾーンの主な特色

★群れで生きるチンパンジーの様々な行動がじっくり観察できる施設整備を行うことで、動物の知性や社会性を学ぶことのできる展示を目指す



- ・道具を用いた採食行動を引き出すなど、チンパンジーの高い知能に応じた環境エンリッチメントを提供することにより、その能力の高さを理解できる展示を行います。
- ・人に最も近く、高度な社会性を有するチンパンジーの日常生活や群れの生態を見ることのできる、ハードとソフトが連携した環境づくりを行います。

■シーンイメージ



■葉を食べるチンパンジー（上）

■チンパンジーのコミュニケーション（下）

■森に暮らすチンパンジーの様々な行動を観察

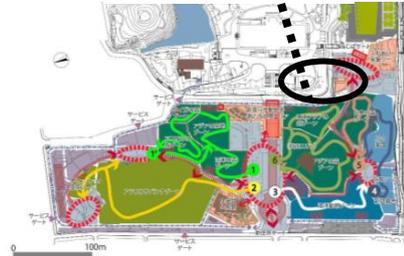
6-4) 展示・空間ハイライター④【東南アジアの森ゾーン】

ゾーンコンセプト：熱帯の森に棲む動物たちの多様性と、その身体能力の高さを知る

■主な飼育展示動物種：フクロテナガザル・シシオザル・マレーグマ・コサンケイ・ヒオドシジュケイ・ベニジュケイ ■ゾーン位置

■ゾーンの主な特色

★フクロテナガザルが、その長い手足を使い、本物の樹木をしならせながら自由自在にわたり歩く様子を観察できる、リアルでダイナミックな展示を展開



- ・東南アジアの森に棲む哺乳類や鳥類など多種多様な動物たちと遭遇し、動物たちの関係性を知るとともに、野生の生息地環境の危機も学ぶことができる展示とします。
- ・様々な環境エンリッチメントを実施し、野生本来の行動を引き出すことで、緑豊かな生息地の景観を背景とした、行動的な展示を実現します。

■シーンイメージ



- 東南アジアの森で出会う、マレーグマ（右上）
- シシオザル（右中）
- ベニジュケイ（右下）



- 本物の樹林の中で空中を自在に飛び回る、フクロテナガザルの展示イメージ（上）

6-5) 展示・空間ハイライト⑤【日本の森・里山ゾーン】

ゾーンコンセプト：大阪近郊の動物たちの暮らしを知り、身近な動物の存在を知る

■主な飼育展示動物種：ニホンジカ・ホンドタヌキ・
ニホンイノシシ・ニホンキジ

■ゾーンの主な特色

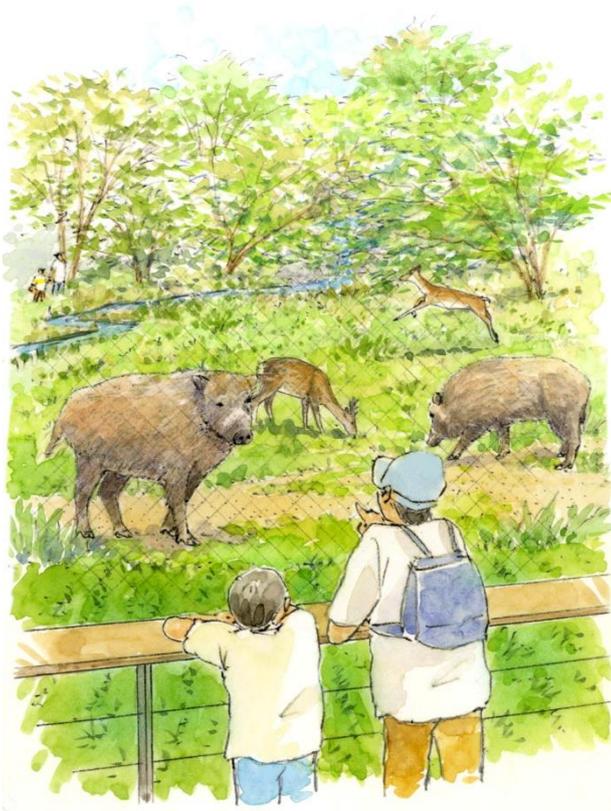
★里山等、身近な所に生息している動物を改めて発見

- ・都市住民が触れることの少ない里山や林縁環境を再現し、大阪近郊に暮らす動物たちの存在やその動物たちと人との関係についての理解を深めます。
- ・この空間の特色である上町台地の崖線の地形や緑を活かし、動物の行動を促す生息環境づくりを行います。
- ・外国人の来園者に対して、日本の豊かな動物相と固有の動物について知る機会を提供します。
- ・造園家-小沢圭次郎（1842-1932）作庭の既存滝組やせせらぎ等の歴史遺産を活かした、日本の里の景観演出を行います。

■ゾーン位置



■シーンイメージ



■ニホンキジ

■里山を訪れた観客の目の前に現れたニホンイノシシと、その奥で草を食み、飛び跳ねるニホンジカ

6-6) 展示・空間ハイライト⑥【アジアの森ゾーン-拡張エリア】

ゾーンコンセプト：ゾウの群れでの自然な生活を、世代を超えて維持できる森

■主な飼育展示動物種：アジアゾウ

■ゾーンの主な特色

★ゾウの繁殖や環境エンリッチメントにおいて重要な「群れ」による飼育にも対応できる施設を整備

■ゾーン位置



- ・将来的な群れ飼育に対応するため、ゾウの飼育展示エリアを拡張します。
- ・飼育下のゾウのQOL（生活の質）を向上させるとともに、繁殖を推進します。
- ・隣接する「東南アジアの森」ゾーンと観覧動線を組み合わせることにより、アジア地域の動物の多様性を表現するとともに、動物を取り巻く環境問題に対する来園者の気づきを促します。

■シーンイメージ



■熱帯雨林に群れで暮らすアジアゾウの群れ

6-7) 展示・空間ハイライター⑦【新夜行性動物舎】

ゾーンコンセプト：夜の闇で生きる動物たちの住む世界へと迷い込む

■主な飼育展示動物種：エジプトルーセットオオコウモリ・齧歯類

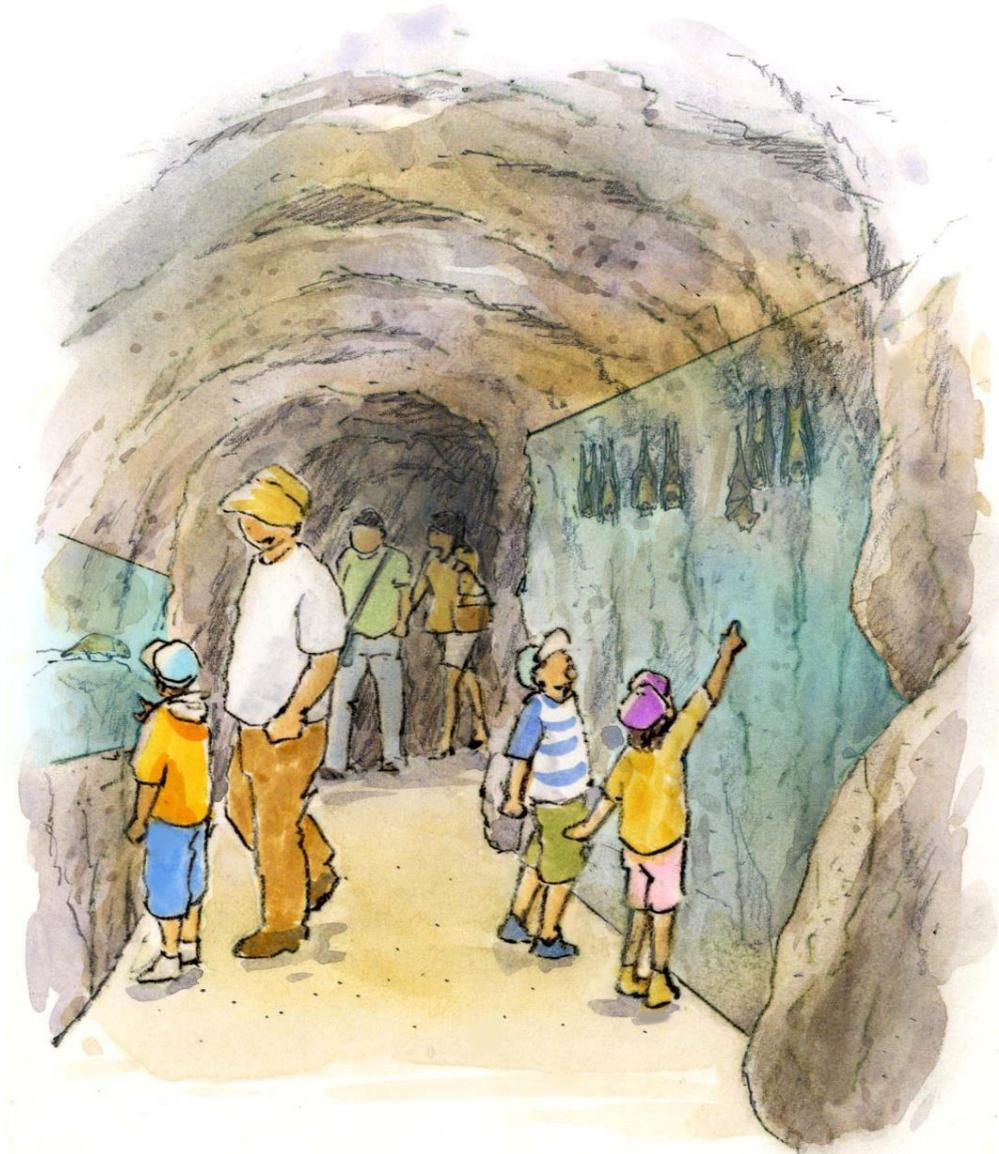
■ゾーン位置



■ゾーンの主な特色

★夜に活発化する動物たちの世界感を、洞窟風の展示の中で、五感で体感できる環境づくりを行います。

■シーンイメージ



■薄暗い洞窟に潜むエジプトルーセットオオコウモリ等

6-8) 展示・空間ハイライター⑧【適応の世界エリア】

ゾーンコンセプト：多種多様な動物たちの、個々の生態をクローズアップ

■主な飼育展示動物種：複数種が飼育可能な動物舎、
コレクション計画から今後検討

■ゾーンの主な特色

・多種多様な動物たちに関する特徴や生態について、個別に観察し、学ぶことができる屋内型施設を中心とした展示施設として整備します。

■ゾーン位置



6-9) 展示・空間ハイライター⑨【アジアの高地ゾーン】

ゾーンコンセプト：寒冷な地域に住む動物の様々な生き方を知る

■主な飼育展示動物種：チュウゴク [タイリク] オオカミ・
レッサーパンダ

■ゾーン位置

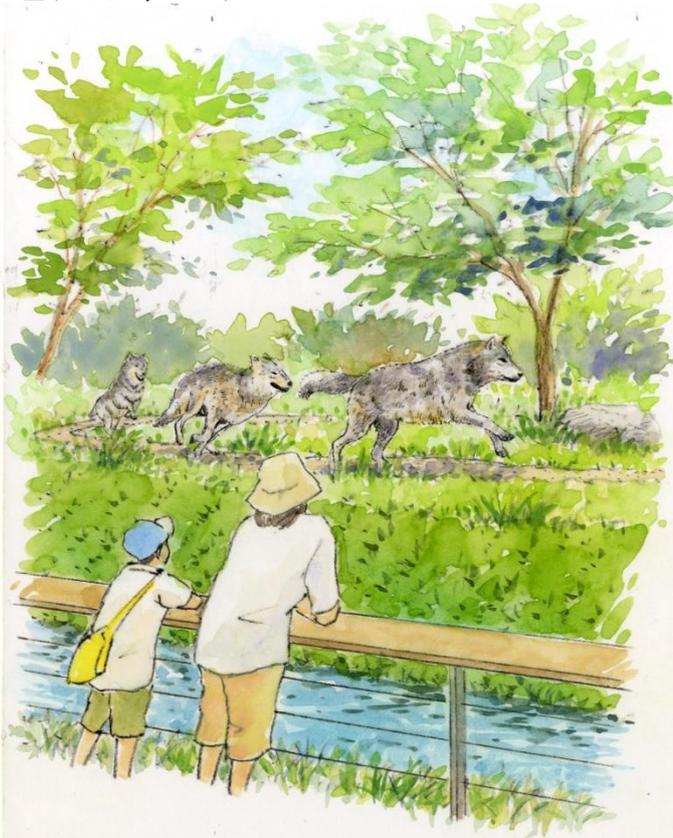


■ゾーンの主な特色

★群れで走るオオカミの迫力、樹上を走るレッサーパンダの能力等、野性動物への畏敬の念を抱かせる

- ・起伏のある森を、オオカミも来園者も共に回遊することができる空間づくりを行うことで、生き生きとした野生本来の姿が見られる空間づくりへと繋がります。
- ・かわいらしさと人気があるレッサーパンダですが、樹上での睡眠・採餌等、本来の樹上生活者としての行動を促す展示環境づくりを行います。

■シーンイメージ



▲オオカミたちの遠吠



▲樹上で暮らすレッサーパンダ

■群れで生き抜くオオカミたちの疾走

6-10) 展示・空間ハイライター⑩【新猛禽舎】

ゾーンコンセプト：森の生態系の頂点に立つ猛禽類を間近で観察

■主な飼育展示動物種：ニホンイヌワシなどの猛禽類

■ゾーン位置

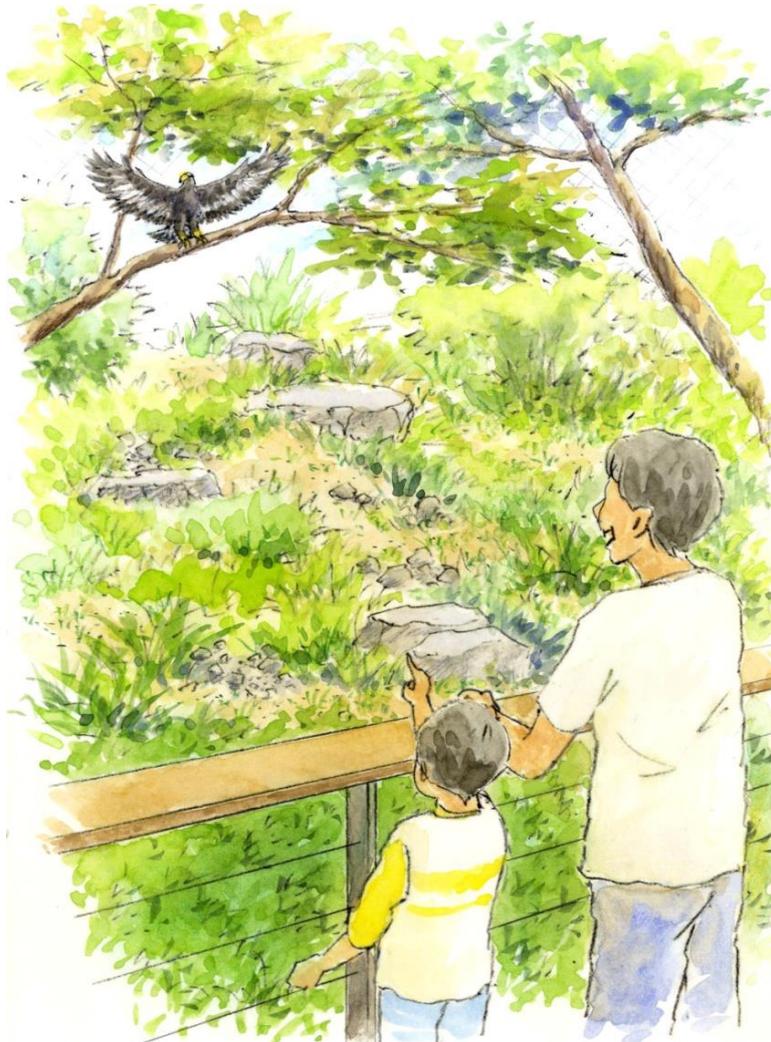


■ゾーンの主な特色

★営巣や捕食（採餌）といった迫力ある猛禽の行動を、空間配置や映像技術によって間近で観察できる展示

・猛禽の迫力を感じることのできる展示にするとともに、繁殖に配慮した動物舎の環境整備を行います。

■シーンイメージ



■岩山の樹木の梢で羽を広げるニホンイヌワシ

6-11) 展示・空間ハイライト⑪【オセアニアの草原ゾーン】

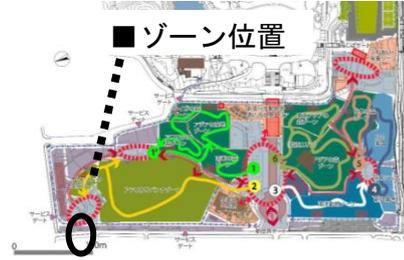
ゾーンコンセプト：独特の進化を遂げたオセアニアの動物たちの草原での暮らしを知る

■主な飼育展示動物種：カンガルー類・エミュー
インコ・オウム類

■ゾーンの主な特色

★カンガルーが、発達した足や尻尾を使いながら
飛び回る、疎林の点在する草原景観を創出

- ・ウォークスルーを取り入れ、動物をより身近に感じていただく環境を創出します。
- ・野生下では群れを成して生活するインコやオウム等の生態を知ることのできる展示を行います。



■シーンイメージ



■カラフルなインコ (左)

■カンガルーやエミュー等が暮らす草原のケージ内をウォークスルー (左)

6-12) 展示・空間ハイライト⑫【タイガの森ゾーン】

ゾーンコンセプト：極東ロシアのタイガの森の減少と保護

■主な飼育展示動物種：アムールトラ

■ゾーンの主な特色

★単独行動での縄張り空間を盛んに徘徊するトラの行動を誘発しつつ、狩りに生きる日常を学ぶ

■ゾーン位置



- ・世界最大のトラであるアムールトラの、威圧感や迫力が間近で感じられる展示を実現します。
- ・野生の生息環境に起きているトラに対する脅威や課題といった様々な課題も同時に理解できるような展示環境づくりを図ります。

■シーンイメージ



■タイガの森を悠然と闊歩するアムールトラ

6-13) 展示・空間ハイライター⑬【将来ツル舎】

ゾーンコンセプト：希少種を守る取組みを伝える

■主な飼育展示動物種：ナベヅル、ソデグロヅル、ニホンコウノトリ、タンチョウ

■ゾーンの主な特色

★希少種の保全を目的として、高い繁殖技術を活かした取り組みや、国内及び国際的な連携事業の実情を、来園者に伝える展示として整備します。

■ゾーン位置



■シーンイメージ



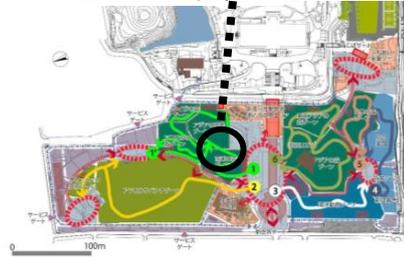
■絶滅が危惧されているナベヅル

6-14) 展示・空間ハイライト⑭【南米の森ゾーン】

ゾーンコンセプト：密林での捕食関係を学ぶことができる、南米の森づくり

■主な飼育展示動物種：ジャガー・ワタボウシパンシエ

■ゾーン位置

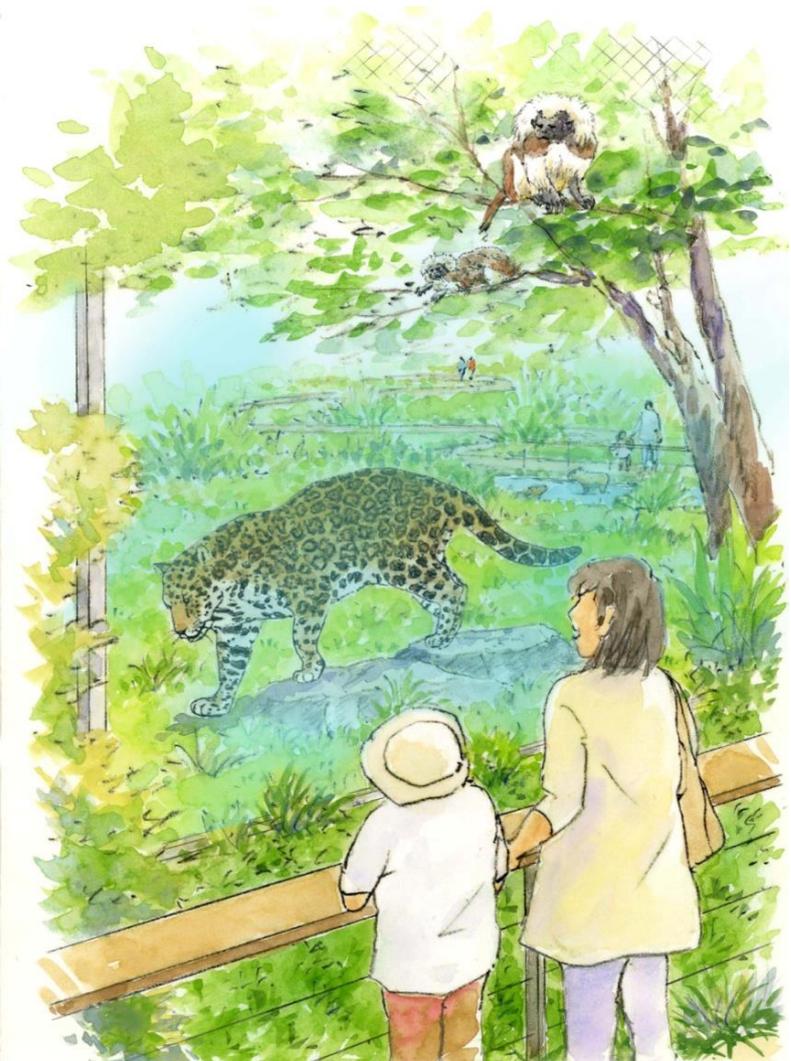


■ゾーンの主な特色

★人が踏み込みにくい密林で繰り広げられる、動物の日常生活を明らかにする

- ・迫力のあるジャガーを中心に、ワタボウシパンシエや、草食動物等（例. カピバラ）を隣接あるいは混合して展示することで、動物種間の捕食関係を学びつつ、南米の森を実感することのできる環境づくりを行います。
- ・南米の熱帯雨林における環境問題等に関する、問題提起型の展示環境づくりを進めます。
- ・新ツル舎の主構造を活かしながら、ジャガーのパドック等へと機能転換することで、無駄のない施設の転用を図ります。

■シーンイメージ



- 間近にせまるジャガー（左）、
- 密林で獲物を狙うジャガーと樹上で見つめるワタボウシパンシエ、さらに奥には捕食関係にある水辺のカピバラ（右下）

6-15) 展示・空間ハイライター⑮【新病院・研究棟/調理場】

ゾーンコンセプト：動物たちの健康な生活を保障するための、新しい病院棟・調理棟の実現

■主な飼育展示動物種： —

■ゾーンの主な特色

- ・動物を健康に維持するために必要な栄養の供給・医療の提供を、高度なレベルで実現できる施設を整備します。
- ・動物園でしかできない動物の保護・研究等の向上にも配慮し、外部連携との拡大をサポートする管理系施設を目指します。
- ・治療・研究・調理状況等が、一般来園者が部分的にでも観覧可能となる、動物園でしか実現できない開かれた施設環境整備を目指します。



《※病院棟等の課題》

- ・現病院棟は検疫や入院のための十分なスペースや設備が備わっていないため、搬入動物や傷病動物の対応が困難な状態となっています。
- ・国道側に動物病院と屋内型入院・検疫施設、国道に直接隣接しない南側に屋外型入院・検疫施設、さらには非公開飼育エリアを配置することで、防音対策に配慮します。

6-16) 展示・空間ハイライター⑯【非公開飼育エリア】

ゾーンコンセプト：動物の保全やコレクションの維持のための戦略的飼育エリア

■主な飼育展示動物種：複数種が飼育可能な動物舎、
コレクション計画から今後検討

■ゾーンの主な特色

- ・繁殖施設、一時収容施設、予備動物飼育施設、出張動物飼育施設等、展示に適さない動物種を中心に、非公開施設として適切な施設条件に配慮し整備します。



6-17) 展示・空間ハイライト⑰【てんしばゲートひろば】

拠点コンセプト：利用者満足度の向上を目指した、エントランス空間づくり

■主な施設構成：動物学習施設、スーベニアショップ、てんしばゲート（既設）、新コアラ舎

■ゾーン位置



■拠点の主な特色

★拠点施設の目玉として、ホール・講義スペース・実験室・展示による学びの空間となる「動物学習施設」を新設します。剥製や骨格標本等の展示の他に、書籍閲覧コーナー、ボランティアルーム等を整備します。

- ・ゲート空間と連携するスーベニアショップやカフェ等を、てんしばゲート北側に隣接して整備し、特に退園時における来園者の購買意欲に応えます。
- ・事業スケジュールのスムーズな進行において欠かすことのできない「コアラ舎」移転を図ります。
- ・ふれあい・家畜ゾーンと併せて、動物についての学びや体験・体感を提供します。



■動物の剥製、骨格標本、動物関連の書籍に囲まれた空間での、園長・獣医・飼育員・専門家等による学習会の様子

6-18) 展示・空間ハイライト⑱【新世界ゲートひろば】

拠点コンセプト：園内周遊のメイン拠点エリアとして、
利用者サービス向上とにぎわいの創出を目指した空間づくり

- 主な施設構成：レストラン/カフェ、スーベニアショップ、
総合案内所、雨天休憩所、無料遊具エリア、
新世界ゲート（既設）

■拠点の主な特色

★来園者がゆったりとくつろぐことができる冷暖房機能
を備えたレストラン/カフェ等の設置を図ります。



- ・ゲート空間と連携するスーベニアショップを新設し、特に退園時における来園者の購買意欲に応えます。
- ・総合案内所については、わかりやすく、開かれた雰囲気をもつ整備を行うことで、来園者へのCS向上を図ります。
- ・雨天時の休憩・退避利用に応える、屋根付き休憩スペースの配置を行います。
- ・子どもの無料遊具施設を、「レストラン/カフェ」に近接する場所に配置します。なお、遊具デザインは、子どもが身体を動かして動物の能力と体験できるようなものや、自然・動物・生きものの不思議等で子どもの感受性を刺激するような、動物園スタッフとの協働によるデザイン検討を図ると共に、子どもを見守る保護者のための休憩空間にも配慮します。
- ・その他、各種レンタル、コインロッカー、ボランティアルーム等、よりわかりやすく使い勝手の良い施設整備を行うことで、園内各種サービスの向上に資するリノベーションを図ります。
- ・各種施設整備に際しては、既存のペDESTリアンデッキの構造を活かしたリノベーションを主体とした整備を図ることで、建設コストの縮減を目指します。



- レストランカフェの外観イメージ（上）
- 民芸品販売イメージ（中上）
- 屋根付き休憩スペースのイメージ（中下）
- 冒険心溢れる子どものあそび場（下）

7 各種便益・サービス施設 他

7-1 便所棟について

- ・目標入園者数から必要便所穴数を計算し、必要穴数を確保します。
- ・施設・設備ともに上質なデザイン的配慮を施し、来園者サービスの向上を目指します。
- ・新施設整備に併せて、便所棟の適正配置を行います。



【便所棟のイメージ】



▲標準 TYPE-8 の外観イメージ



▲キッズトイレの内部空間イメージ (左)、ユーティリティの質を向上させた女性用トイレ (右)

7-2 誘導系サインについて

1) 構成要素

- ・現在天王寺公園全体で新たに設置がされている、誘導系新サインシステムの構成要素を前提条件に、①総合案内板、②エリア案内板、③誘導案内板、④ピクト案内板の4種類からなる誘導系サインを、本計画の観覧動線計画を踏まえ、適宜配置を行います。

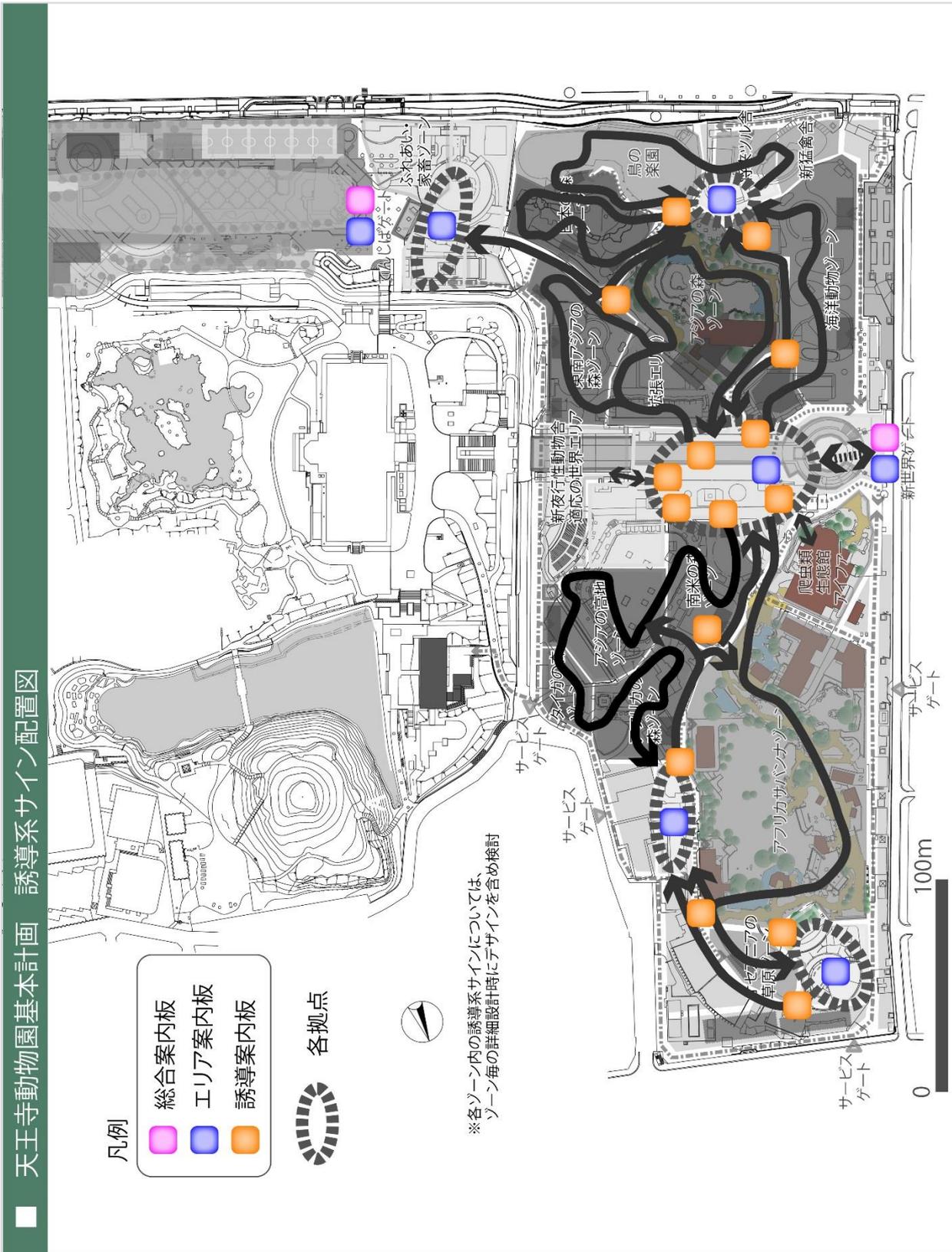
2) 誘導系新サインシステムの内容構成

No	種別	内容構成	備考
①	総合案内板	周辺案内図、公園案内図	※ポスタースペースは個別に併設検討を行う
②	エリア案内板	動物園案内図、動物紹介、矢印誘導	
③	誘導案内板	矢印誘導	
④	ピクト案内板	ピクトグラムによる案内誘導	

3) 具体的な配置

- ・2箇所主要ゲートについては、公園と動物園の全体配置について、来園者に俯瞰的に把握して頂くことが重要であるため、①総合案内板と②エリア案内板を同時に配置します。
- ・各ゾーンの誘導系サインについては、ゾーン毎の詳細設計時にデザインを含め検討します。

誘導系サイン配置図（案）



7-3 レストラン/カフェについて

- ・目標入園者数から必要な飲食席数を算出し、必要席数を確保します。
- ・想定する施設グレードとしては、中規模程度のフードコートと、小規模な飲食スペースを園内各所の休憩スペースに適宜配置し、休みたいときにいつでもくつろげる環境を整備します。
- ・動物園内だけでなく、てんしば、新世界、美術館を含めたエリア全体におけるサービス機能のバランスを考慮し、適正配置を行います。

7-4 その他

1) 計画地周辺の野生動物対応について

- ・現在「鳥の楽園」がサギの営巣地となっていたり、園内の餌を採餌対象として狙うサギがいる等、本計画地はサギのコロニーが形成されている状況にあります。
- ・また本計画に伴うこれまで以上の緑豊かな環境形成に伴い、計画地周辺に生息する様々な野生動物の進入による食害・糞害、あるいは鳥インフルエンザ等の監視伝染病発生の可能性等、園内衛生環境の悪化リスクが想定されます。
- ・よって今後の詳細設計に際しては、ゾーン毎の景観デザインのあり方、個々の展示種に対する飼育方針との整合性、さらには周囲の野生動物との共存という視点にも配慮しながら、屋外の野生動物に対する適切なバリアを用いた進入コントロール対策や、餌管理等ソフト面での対応といった対策を検討した上で、園内衛生環境の悪化リスクの低減を図ります。

2) 展示動物環境における水質のあり方について

- ・飼育水槽内での水質レベルについては、対象とする動物種やその水槽規模毎に必要な適切な水質レベルの設定を行います。
設定された水質レベルに基づき、コスト低減や維持管理面での配慮を踏まえながら、給水ろ過設備のスペックの検討を進めるものとします。

8 年次計画と総事業費

ゾーン毎に建設ローテーションを考慮し、20年間にわたる段階的な整備プロジェクトとして設定します。

	第1期 (H29~33)	第2期 (H34~38)	第3期 (H39~43)	第4期 (H44~48)	...
動物舎等	海洋動物ゾーン ふれあい・家畜ゾーン アフリカの森ゾーン		総事業費（見込） 約 85 億円 ※別途、継続使用施設の大規模改修が必要		
	東南アジアの森ゾーン 日本の森・里山ゾーン アジアの森ゾーン【拡張】				
	新夜行性動物舎 適応の世界エリア				
			アジアの高地ゾーン 新猛禽舎		
			オセアニアの草原ゾーン タイガの森ゾーン 将来ツル舎 南米の森ゾーン		
	てんしばゲートひろば （動物学習施設等）		新病院・研究棟/調理場		非公開飼育エリア
収益施設等	てんしばゲートひろば （スーベニアショップ等）		新世界ゲートひろば （総合案内所等）		
	新世界ゲートひろば （レストラン/カフェ等）				